［趣旨説明］

日本語教育センター長
異文化コミュニケーション学部教授
丸山　千歌

○**栗田**　では、講演にまいります。本シンポジウムコーディネーターは日本語教育センター長異文化コミュニケーション学部教授、丸山千歌先生です。では、丸山先生にマイクをお預けいたします。

趣旨説明

○**丸山**　皆様こんにちは。立教大学日本語教育センター長の丸山でございます。本日は週末の、しかもお天気のいい、イチョウもきれいな、青空もきれいな日にこちらにお集まりくださいまして、本当にありがとうございます。**【スライド①-1】**

本日は「大学の国際化と日本語教育におけるプログラム評価―過去・現在・未来―」という企画をいたしました。立教大学日本語教育センターは 2011 年に設置されたのですけれども、2012 年から、毎年この季節にシンポジウムを開催してまいりました。第 1 回目は「大学における日本語教育の意義と可能性」ということで、本日コメンテーターにお迎えしております西原先生に基調講演をお願いいたしました。そして、第 2 回目は「海外の大学が日本の日本語教育機関に期待すること」でした。この 2 回は私たち立教大学の日本語教育がどういう方向を向いたらいいのかという方向づけを模索するための企画だったように思っております。そして第 3 回、昨年度でございますが、やはり本日、コメンテーターでお迎えしております長尾先生にご講演いただきまして、「大学の国際化と大学評価-日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか-」という企画をいたしました。**【ス**

ライド①-2】

プログラム評価のプロジェクトですけれども、私たちは 2013 年度より、大学の国際化の一翼を日本語教育部門が担っているという自負のもと、大学運営全体への貢献を図るための評価というのを設計して実施しようではないかという、そういうプロジェクトに取り組んできております。**【スライド①-3】**こういったプロジェクトに取り組む前の方向づけというのをシンポジウムの 1 回目、2 回目とやっていたんだなと、今振り返って思います。プログラム評価をどんなふうに行っていくかということですが、こちらのスライドをご覧いただきたいのですが、評価をぜひ自分たちのプログラム運営の方向づけをしていきたい、役に立つような評価を行っていきたいということで、そこを念頭に置いて設計して、実施をして、そして報告をして、またその結果を使っていくという、そういうリンクの中で、まず評価を、目的活用法、評価の課題、手法と指標というようなことを設計していこうと思って始めました。その中には学生、それから教職員、それから海外の協定校の先生方、学習者とかを巻き込んだ参加型の評価を行っていこうというような気持ちでおりました。**【スライド①-4】**

2013 年、2014 年とかけて、このようなロジックモデルも実は考えてつくったところだったのですけれども、**【スライド①-5】**先ほど白石先生からお話がありましたように、立教が昨年度、スーパーグローバル大学に申請をして、留学生数を 5 年で 2 倍、10 年で 4 倍にしていこうというような数も出てまいりました。大学の国際化に対する構想というのがどんどん進んでいく中で、自分たちだけで 2 年、3 年スパンの大きな計画を立てて、それを計画どおりにプログラム評価を行っていくということに、不安を感じました。その不安には、プログラム評価というのを私たちが自分たちのプログラムをよくしていくために使おうという前提があるからです。また、プログラム評価を行ったデータというのを、他部局であるとか、それから大学に対して、自分たちのやっていることを示すコミュニケーションのツールとして使いたいと思っていたのですけれども、刻々と状況が変わる中で、2 年前、3 年前に設計したものに基づいたデータを使って、それを示したところで、今と違うじゃないというようになってしまうのではないだろうかということがございました。そういった刻々と変わっていく状況の中で、プログラムを戦略的に運営していくにはどうしたらいいだろうというようなことも考えておりました。**【スライド①-6】**

どんなふうに日本語教育センターの状況が変わっているのかというのをちょっとお示ししたいと思います。これは昨年の 12 月から現在に至る 1 年弱の間の状況なんですけれども、こんな感じです。今お見せしているのは、2014 年 12 月の時点で、だいたいこんなことが起こるであろうというふうに書いていたスケジュールでございます。ここに 2015 年 4 月には、日本語教育センターが国際化推進機構の下部組織として位置づけられるという、大きな組織的な変更がございました。それと、これは昨年度から計画してきたものでございますが、日本語教育センターの中で新しく稼働した出来事でございます。

このほかに、今お見せしたのは新しく科目を立ち上げましたとか、それから新しいサービスを始めましたというものなんですけれども、今ここで、緑でお示ししているのは、予定されていたものを走らせながら、新しくプロジェクトとして立ち上がったもので、7 月には、来年度に向けてカリキュラム改編をしていこう、そういうことが決まったり、それから 8 月には、先ほど白石先生がお話しくださったように、超短期プログラムというのを試行するための話し合いが始まったりと、こんなふうにして、どんどん 1 年の間にいろいろな出来事が起きていて、そういう中で私たちは日本語教育に携わっております。**【スライド①-7】**

そういった、いろいろ状況が変わる中で、先ほどお話ししたような不安を持ちながら、昨年は大学の国際化と大学評価という、自分たちの日本語教育のプログラムの評価、貢献をどう評価するかというような企画をいたしました。**【スライド①-8】**その詳細はこちらの冊子にまとめておりますので、ぜひごらんいただきたいと思うのですけれども**【スライド①-9】**、そのときに長尾先生のご講演の中でまとめとして示されたのがこのようなスライドでした。まず役に立つ評価というのをやっていきなさいということ、それから大学の国際化というのは、地球規模の急激な社会変革の一端なのであるということ、そしてその流れの中で自分たちが主体的に何か行っていこうとするときに、評価というのはきちんといいツールとして使えるんだということ、そして日本語教育の評価というのは、日本語教育自体は重要なんだけれども、その有用性というのを考えるときに、いろいろな多様な研究があるんだ。こういったことをお示しいただきました。**【スライド①-10】**評価の有用性の検証には、多用な評価の活用方法があるということをお示しいただいた中で、私たちは開発型評価というほうへ発想を変えてまいりました。

開発型評価というのがどういうものかということについては、本日の第 2 部で、

小澤先生に少しお話しいただけると思うので、ここではちょっと、ここまで触れておきたいのですけれども、具体的にはこんなイメージで、その都度、その都度、小さな評価を行いながら、今自分たちはここから何をしていくのかというふうなことを考えていく、こういったデザインになっています。

本日の企画に移ってまいりたいと思いますが、本日は、私たちがこうやって日本語教育センターの中で評価に対する考えを変えてきて、今また新しい評価に取り組んでいるんですけれども、そういった中で、これからまた 1 年、2 年と先、どのように取り組んでいったらいいかということを考えていきたいと思っております。**【スライド①-11】**

【第 1 部】

○**丸山**　第 1 部の講演は 3 人の先生にご登壇いただきます。お一人目の先生には、日本の日本語教育におけるプログラム評価のあり方に一石を投じてくださったプロジェクトの代表者の先生、田丸先生に、その当時の背景、そして研究の成果についてお話しいただきたいと思います。また 2 人目の先生は、異文化コミュニケーション学部の池田先生です。前日本語教育センター長の池田先生に、日本語教育のプログラム評価というのが今どんなふうになっているのか、これからどうしていくのかということについてお話しいただきます。そして 3 人目の登壇者である、国際化推進機構長の山口先生には、国際化の推進にあたり、日本語教育センターに期待することというのをそれぞれ 30 分でお話しいただこうと思います。その後、10 分休憩をとりまして、3 名のコメンテーターの先生にご登壇いただきます。西原先生、小澤先生、長尾先生から日本語教育またはプログラム評価の観点からコメントを頂戴し、会場の皆様とディスカッションを行いたいと思っております。**【スライド①-12】**第 1 部の登壇者の先生方、先ほどご紹介したとおりでございます。**【スライド①-13】**

それでは私の趣旨説明はここまでといたしまして、早速第 1 部のお一人目のご登壇者である田丸先生にご講演をお願いいたしたいと思います。ご講演のタイトルは「日本語教育のプログラム評価の過去について」でございます。田丸先生、よろしくお願いいたします。

【スライド①-1】

大学の国際化と日本語教育における プログラム評価
－過去・現在・未来－

趣旨説明

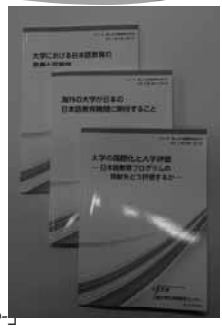
立教大学日本語教育センターシンポジウム2015
2015年12月5日
日本語教育センター長・異文化コミュニケーション学部教授
丸山千歌

【スライド①-2】

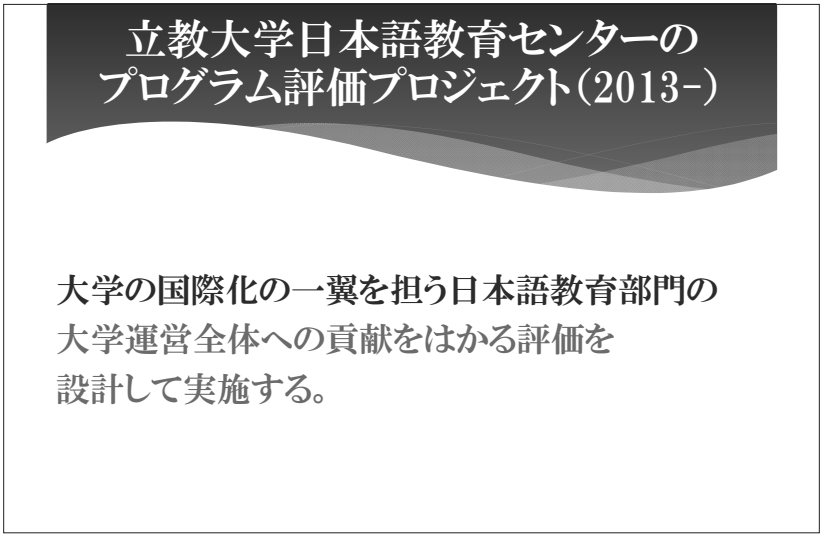
日本語教育センター

＊ 2011年　日本語教育センター設置

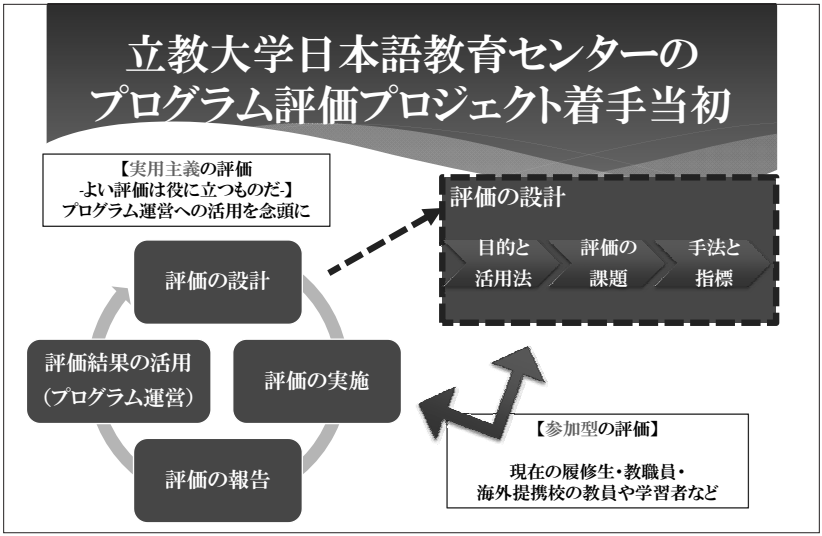
＊ シンポジウム
第1回　2012年12月4日
　「大学における日本語教育の意義と可能性」
第2回　2013年12月21日
　「海外の大学が日本の日本語教育機関に
　　期待すること」
第3回　2014年12月6日
　「大学の国際化と大学評価
　-日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか-」



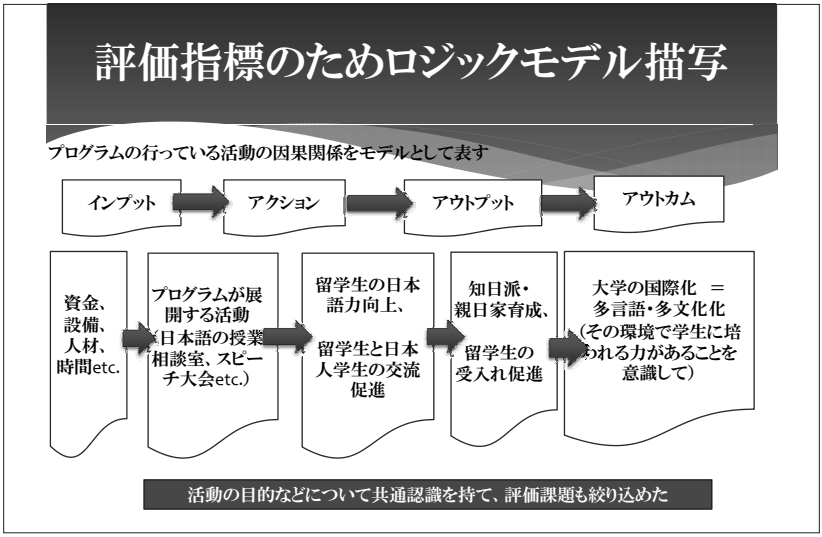
【スライド①-3】



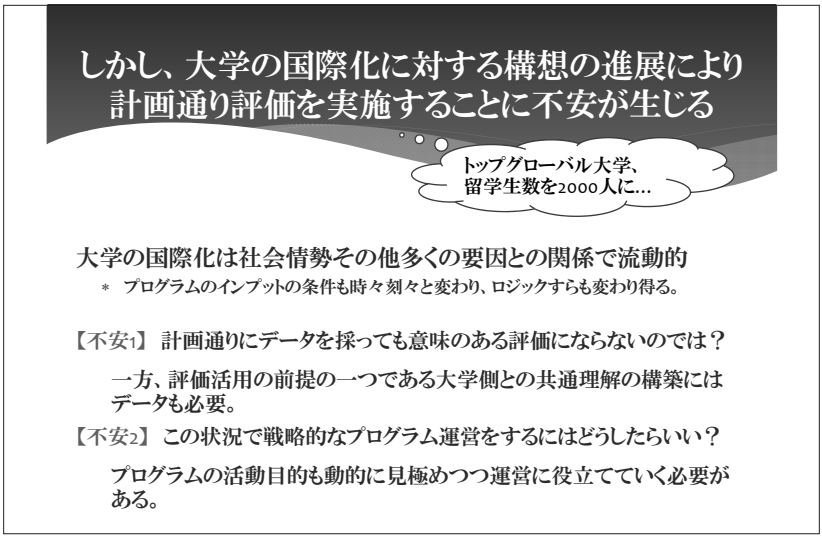
【スライド①-4】



【スライド①-5】



【スライド①-6】



【スライド①-7】

2014年12月以降の日本語教育センターの活動

＜2014年度＞
- 2014/12 「立教大学日本語教育センターシンポジウム2014 」開催レポートをHPで発信
- 2015/2/20 第3回FD開催（センター員＋事務局）
- 2015/2/26 第4回FD開催 （センター員＋兼任講師＋事務局）
- 2015/3/4 立教日本語教育実践学会を開催 （センター員の実践を共有）

＜2015年度＞
- 2015/4 日本語教育センターが「国際化推進機構」の下部組織としてスタート
- 2015/4 半期に2回の留学生向けニュースレターの発行
- 2015/4 ビジネスデザイン研究科・21世紀社会デザイン研究科との併置科目展開開始
- 2015/4- Webによるプレイスメント・テスト開発事業開始
- 2015/4- 日本語相談室のweb予約システム稼働開始（利用件数が前年のほぼ倍に）
- 2015/6 留学生のためのスピーチコンテスト開催
- 2015/7- 学部正規留学生のための日本語科目のカリキュラム改編決定
- 2015/6/4 立教GP報告会日本語教育センターの取り組みについて成果報告
- 2015/7/17 第1回FD開催 （センター員＋事務局＋科研代表者 小澤先生）
- 2015/8- 2016年度超短期プログラム試行をめざして
- 2015/9/4 第2回FD開催 （センター員＋兼任講師＋事務局）

【スライド①-8】

そんなタイミングでの（第3回）シンポジウム…
「大学の国際化と大学評価
日本語教育プログラムの貢献をどう評価するか」

1 講演 「大学の国際化と日本語教育」
長尾 眞文 氏
（現国連大学サステイナビリティ高等研究所 客員教授/プログラム・アドバイザー）

2 指定討論「立教大学の国際化と日本語教育」
小澤 伊久美氏
（国際基督教大学 日本語教育課程 課程准教授）
池田 伸子 氏
（異文化コミュニケーション学部教授、前日本語教育センター長）

【スライド①-9】

『新しい日本語教育を考える』No.3

【スライド①-10】

第3回シンポジウムの長尾先生の講演のまとめ

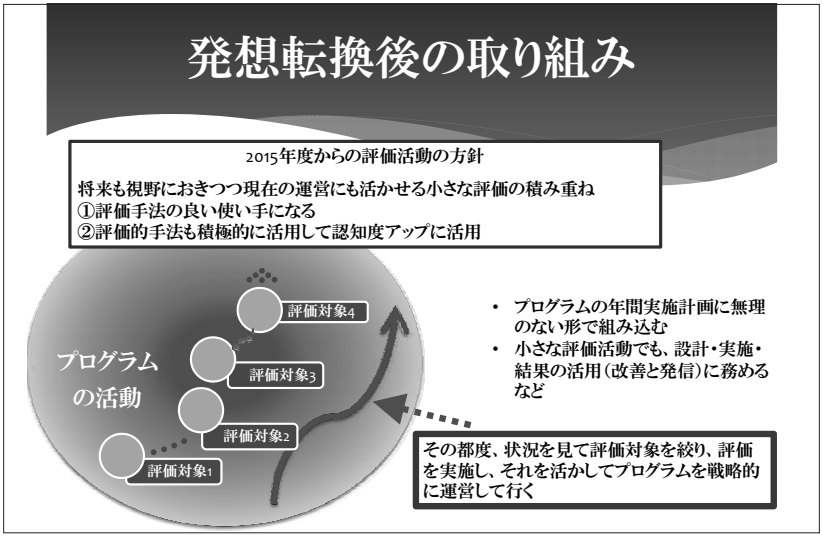
1. 実用重視の「役に立つ」評価のすすめ。評価手法の的確な活用も重要だが、それ以上に評価文脈を形成する評価システムの整備が評価の有用性を左右する。

2. 大学の国際化は地球規模の急激な社会変革の一端。その大きな流れに大学が主体的、自立的に取り組もうとする時、評価は国際化方針、戦略の意思決定支援ツールとして力を発揮する。

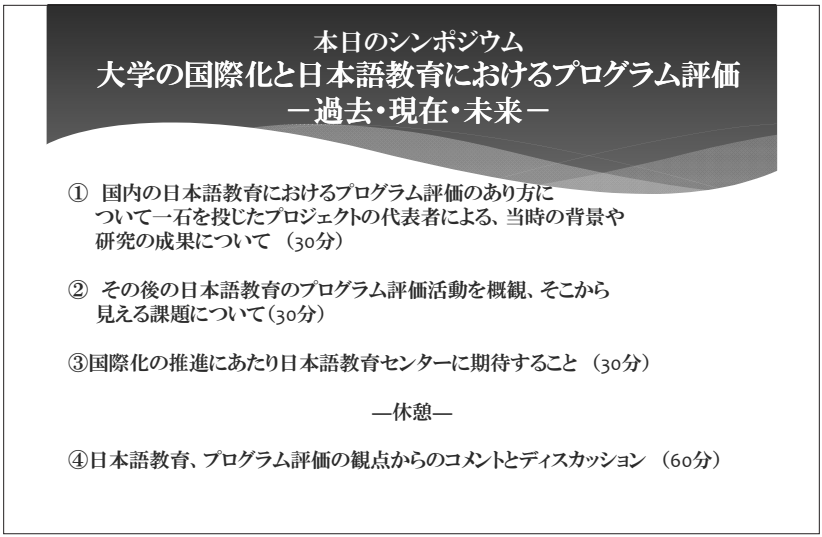
3. 日本語教育プログラムは大学の国際化の動きの中で重要な役割を担うことは明らかだが、その有用性の検証には多様な評価の活用方法がある。

⇒開発型評価（Developmental Evaluation)へ発想を転換

【スライド①-11】



【スライド①-12】



【スライド①-13】

第1部の登壇者のご紹介

田丸　淑子 氏
（元　国際大学大学院国際関係学研究科教授）

池田 伸子 氏
（異文化コミュニケーション学部教授、前日本語教育センター長）

山口 和範 氏
（副総長、国際化推進機構長、経営学部教授）